

第1回整備計画説明会での主なご意見

委員からの主な質問とご意見、それに対する事務局や他の委員の意見（→部分）は以下の通りです。

○緑地計画や植栽に関して

- ・北側の緑地内遊歩道は、ホテル側からの眺望という点では南側と同様に歩道は低い位置にあった方がよい。
- ・ホテル内の露天風呂が遊歩道や緑地からも覗かれる可能性があるため植栽による目隠しが必要。
- ・人は海際を平行に歩くものだと思う。緑地内に遊歩道は必要ないのでは。
- 北側は背後に市道が無く、建物が迫っているため歩道を下げると非常に圧迫感がある。
- 植栽による目隠しは可能である。
- ・植栽の10年後、20年後はどうなっているか。
- 松は成長に合わせて剪定や維持管理が必要となる。
- ・植栽として松は反対である。飛沫はある程度覚悟しないとイケないが、お客さんの眺望を優先する。
- 植栽の種類については、今後検討したい。
- ・一般的に緑地帯の幅が約30mで、その中に海際の歩道幅が4m、緑地内の歩道幅が2mというのは妥当なのか。
- このような細長い緑地は珍しい。歩道幅は管理用車両が入ることを想定して決定している。緑地内歩道も見かけ幅は2mだが、両端を緑化舗装して実際は3m確保している。

○各部デザインに関して

- ・別府は竹が有名で、観光客にもアピールしていきたい。護岸の手摺の下に竹（人工竹垣）の装飾を施したり、飛沫防止帯の植栽を竹にして、竹の子掘りや竹細工体験をしたりといった案はどうか。
- 別府らしさをアピールする方法については検討したいが、竹は繁殖力が強く維持管理が難しいのですぐに竹藪になってしまうことが想定され、管理する大分県としては竹を採用することは考えていない。
- ・緑地、遊歩道には美観性、機能性、安全性、防犯の観点からも照明は必要である。センサー式LEDや埋め込みタイプ等の維持費が少ない照明もあるので、是非検討してほしい。
- 照明については、大分県の方で今後詳細検討を行う予定。

- ・飛沫防止帯の植栽の高さの規定はありますか。
- 高さの規定は特に無く、植栽密度の規定のみである。
- ・護岸には浮輪が設置されており安全対策がなされていると思うが、小さい子供が手摺の隙間から落ちたりしないように小さくできないのか。
- 護岸海側は80cmの高さのコンクリート壁があり、その上の手摺の隙間は基準に準拠しているので問題ない。

○全体の事業計画と検討会に関して

- ・現在の事業の進捗度はどの程度であるか。
- 基本的なレイアウトは現在提示しているベースプランであるが、皆さんの意見を受けて見直しを行って参りたい。
- ・別府市は身障者対策に力を入れているので、今回の整備にもそのあたりの対策をきちんとしてほしい。
- 検討会には別府市も含めて検討をしており、基準に合ったスロープや手摺の設置等に配慮している。
- ・委員会やWS、説明会の結果をHPで公表するなど、情報公開を速やかにしてほしい。
- 検討結果は里浜づくり新聞に取り纏めて報告しており、HPや説明会参加者には配布している。別府市と県庁にも置いている。
- ・何か夢のあるものを形として示してもらいたい。例えば貯留帯の側溝を足湯にして350mの長さの湯煙街道として売り出すといったアイデアなど。
- 素晴らしいご意見であるが、事業の制度や維持管理等の問題で実現は困難である。
- ・観光客にとっても地元にとっても、海岸線をジョギングしたり散歩したりといったニーズは増えると思われ、各地区に連続性があることが重要。
- 今後、国と県で取り組んでいきたい。
- ・整備に関して意見があった場合の連絡先はどのようにしたらよいか。
- 事業に対する問い合わせは国か県の方で対応する。
- ・計画にあたっては、将来的な運営や管理を見通してやってほしい。

お知らせ

今回の説明会の中でも、検討結果の情報共有のあり方について御意見、御要望がありました。事務局では今後とも迅速かつ分かりやすい情報提供に努めてまいります。

第2回別府港海岸（北浜地区2）景観検討会の内容については、第2回別府港海岸（北浜地区2）整備計画説明会において皆様に報告する予定です。詳細については下記のホームページ等にてご案内致します。これからもご協力をお願い申し上げます。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記の別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。

<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/>

別府里浜づくり新聞

第42号
平成23年
3月17日

第1回別府港海岸整備計画説明会を開催しました



第1回別府港海岸（北浜地区2）整備計画説明会を平成23年1月29日（土）午後1時30分から午後3時30分まで、大分国際交流会館交流ホールで開催しました。

説明会には30名の市民の方々が参加され、第1回景観検討会での提案事項を踏まえた『護岸上部及び緑地のデザイン』について、スライドや模型を使って説明しました。

その後の質疑応答では、市民の方々から貴重なご意見を頂きました。

整備計画説明会の概要

整備計画説明会では、まず事務局より事業概要、実施状況及び今後の計画に関する報告と、第1回景観検討会の概要及び昨年度までの検討経緯について説明を行い、次に、護岸上部や緑地全体の具体的なデザインについて説明しました。

具体的なデザイン提案については、まず東京工業大学齋藤研究室で製作した3種類の模型を使って、齋藤教授（景観検討会委員長）と学生から、護岸を構成するパラペット、水叩き、飛沫防止帯、及び緑地の植栽について説明して頂きました。次に、事務局よりスライドを用いて、護岸各部のデザインを説明しました。

その後の質疑応答においては、緑地や遊歩道からの眺望、バリアフリーといった利用者としての意見や、別府らしさをアピールしたいといった意見等、様々な視点で議論して頂きました。

第1回別府港海岸（北浜地区2）整備計画説明会（景観検討）

説明会次第

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 事業説明
 - ・別府港海岸保全施設整備事業の概要、実施状況及び今後の計画
 - ・別府港海岸（北浜地区2）景観検討会の概要
 - ・昨年度までの検討経緯
 - ・模型による護岸上部形状等デザインの説明
 - ・模型による北浜緑地デザインの説明
4. 質疑応答
5. その他、連絡事項等
6. 閉会

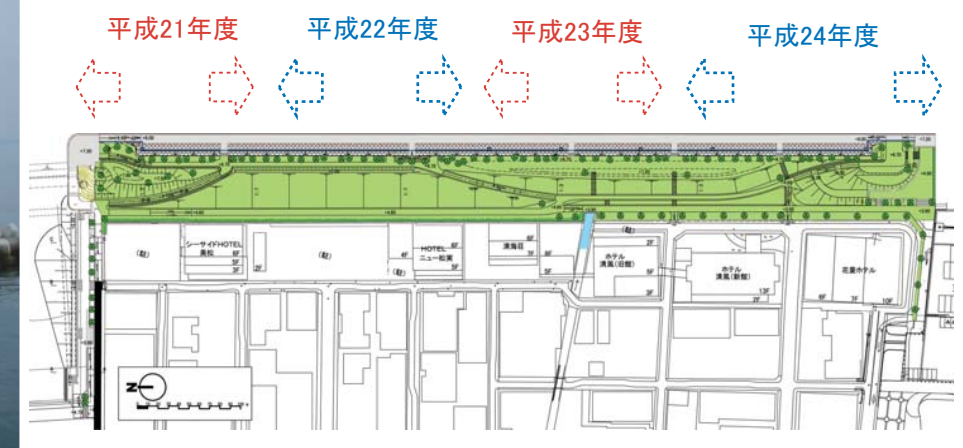
事務局より事業概要、景観検討会の概要を説明

事務局より、まず別府港海岸の里浜づくりと題して、各地区の整備スケジュール、整備方針及び整備後のイメージについて概要説明を行いました。

次に、北浜地区2におけるこれまでの検討経緯と昨年12月に開催されました第1回景観検討会（委員長：東京工業大学 齋藤教授）の概要について説明しました。



施工中の護岸（平成23年3月）



整備スケジュール

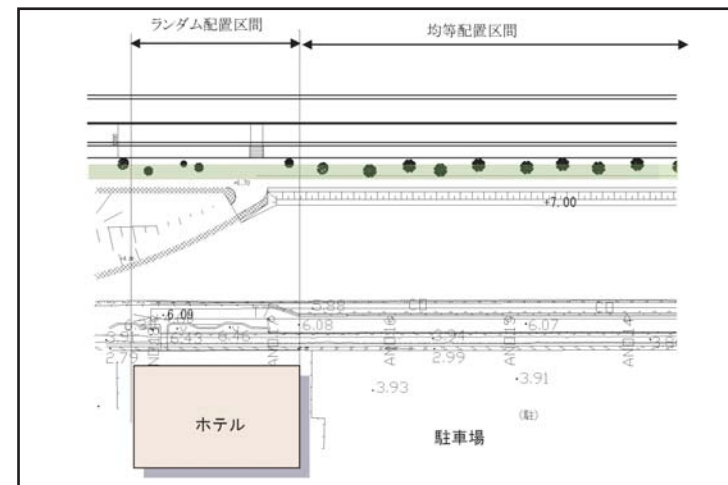
事務局より第1回景観検討会の提案事項の説明

第1回景観検討会（12月14日開催）において提案した護岸各部のデザインと、検討会での意見を基に再検討した、飛沫防止帯の植栽計画について結果を報告しました。

まず、第1回景観検討会で了承された項目として、護岸パラペット形状、水叩き及び貯留帯の舗装材料と境界処理方法、南側展望台壁面処理、管理用通路の動線について、その検討結果を説明しました。

また、第1回景観検討会において再検討課題となっていた飛沫防止帯の植栽については、ホテル正面と駐車場前の2つのエリアに区分した上で、ホテル正面は形状寸法の異なる樹木をランダムに配置することで海への眺望や空間のリズムに配慮し、駐車場前は高さ3mのクロマツをほぼ均等に配置する案を提案しました。

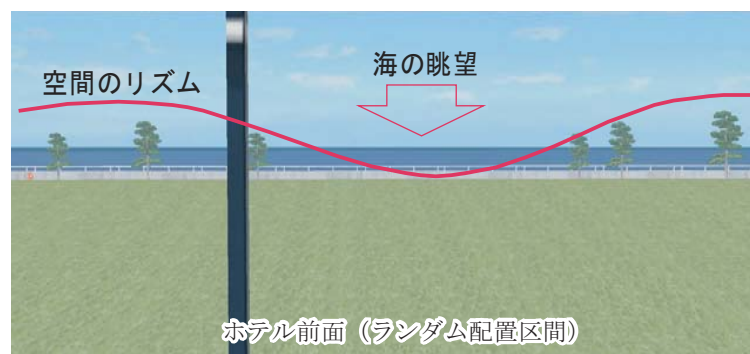
樹種については、耐潮性や耐乾性の観点から、高木の場合、クロマツ・アラカシ・キョウチクトウ・オリーブ・クスノキ等を提示しました。



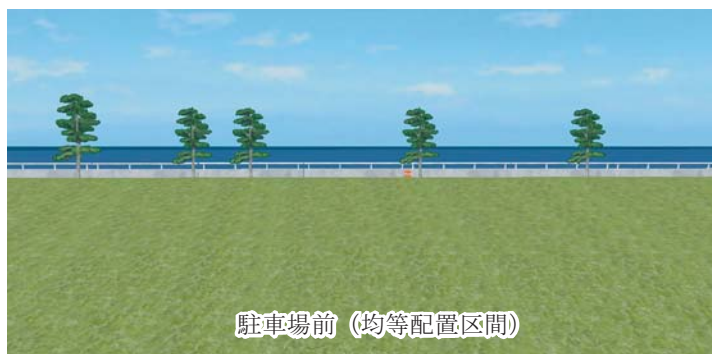
植栽配置平面図



高木の種類



ホテル前面 (ランダム配置区間)



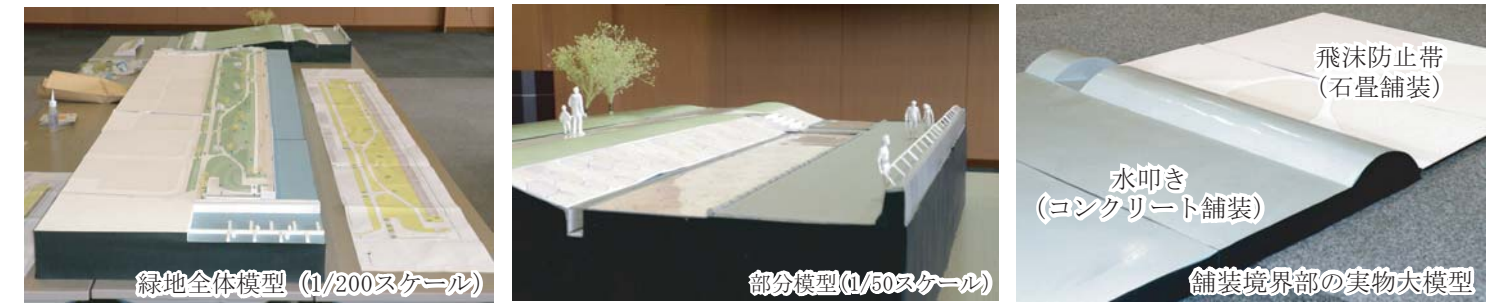
駐車場前 (均等配置区間)

護岸部分を背後から眺めた場合の植栽のイメージCG

東京工業大学による模型を使った各部デザインの説明

護岸及び緑地のデザインの概念について、3種類の模型（全体模型：200分の1スケール、護岸からホテルまでの部分模型：50分の1スケール、舗装境界部の実物大模型）を使って説明して頂きました。

まず、全体模型を使って護岸から水叩き、飛沫防止帯、緑地に至るデザインの検討、緑地斜面勾配の変化のつけ方や、水叩き、貯留帯としての機能面と遊歩道としての利用面を配慮した舗装材料の選定等に留意した点の説明がありました。また、実物大模型を使って水叩きと貯留帯の境界の収まりのイメージを体感してもらいました。



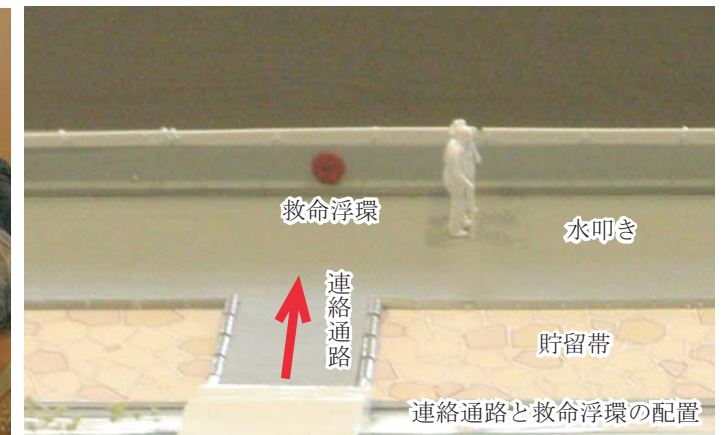
齋藤研究室製作・展示の模型

次に、50分の1スケールの部分模型を使って、護岸上部から既存のホテルまでの施設配置や、護岸と緑地をつなぐ連絡通路の正面に浮輪を配置して安全性に加え、デザインにおけるアクセントとすること等の説明がありました。また、実際のホテルの窓を模した模型を使って、緑地との高さ・位置 関係を示しました。

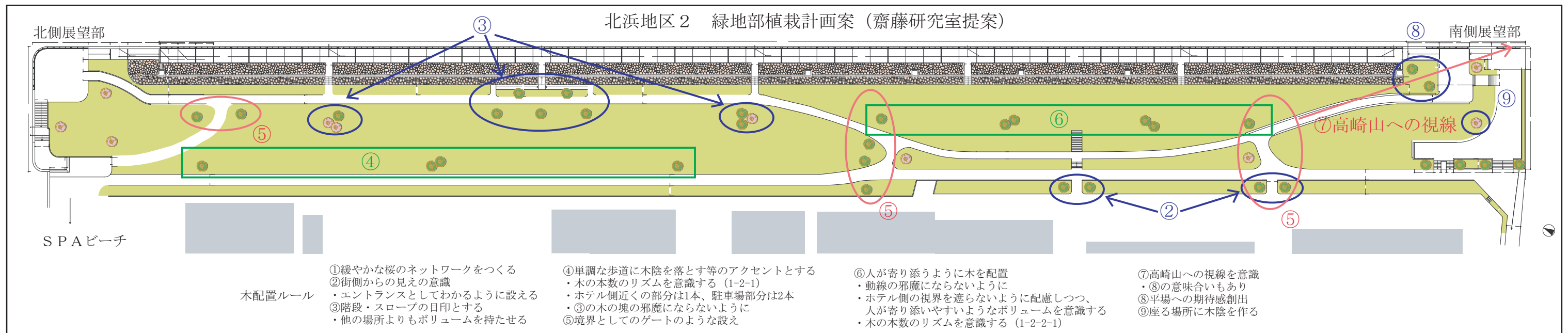
また、全体模型では、主に緑地内の歩道や植栽の配置計画について考え方を示しました。植栽は、2種類の桜の木を提案し緩やかな桜のネットワークをつくること、歩行者にとってゲートの役割を果たすこと、高崎山への視線を意識したこと、等のデザイン概念の説明がありました。



模型によるデザインの説明



連絡通路と救命浮環の配置



木配置ルール

- ①緩やかな桜のネットワークをつくる
- ②街側からの見えの意識
 - ・エントランスとしてわかるように設える
- ③階段・スロープの目印とする
 - ・他の場所よりもボリュームを持たせる
- ④単調な歩道に木陰を落とす等のアクセントとする
 - ・木の本数のリズムを意識する (1-2-1)
 - ・ホテル側近くの部分は1本、駐車場部分は2本
 - ・③の木の塊の邪魔にならないように
 - ⑤境界としてのゲートのような設え
- ⑥人が寄り添うように木を配置
 - ・動線の邪魔にならないように
 - ・ホテル側の視界を遮らないように配慮しつつ、人が寄り添いやすいようなボリュームを意識する
 - ・木の本数のリズムを意識する (1-2-2-1)
- ⑦高崎山への視線を意識
 - ・⑧の意味合いもあり
- ⑧平場への期待感創出
- ⑨座る場所に木陰を作る